

日本への架け橋

・専門家が語る日本の教育制度と語学学習・

丹羽 筆人 Niwa Fudehito

米日教育交流協議会代表。在外子女の日本語教育と帰国生大学・高校・中学入試のサポートを行なう。他にデトロイト補習授業校講師。



◆米日教育交流協議会
電話：1-248-346-3818 サイト：www.ujec.org

Vol.01

ますます多様化する高校卒業後の進学先

現地校の卒業シーズン到来です。高校卒業後の進学先は、ここ数年でますます多様化しているのを感じます。

以前は、在外生活3年前後の生徒の大多数は日本の大学に進学しましたが、近年では北米の大学への進学も目立ちます。英語での授業にも慣れ、現地校での成績が良好であれば、進学可能な大学が視野に入ってくるはず、北米には世界的にもランクの高い大学が目立っているのも魅力です。さらに、専攻を入学後に決めたり変更したりできるシステムも日本にはないものです。

一方で、北米で生まれたり幼少時に日本を離れたりして、北米生活が長い生徒の日本の大学への進学も増えています。日本の大学は4月入学が一般的ですが、近年は、9月または10月に入学できる大学が

増加しています。このような秋入学の大学は入学者の選考を書類審査のみで行なう場合が多いですので、受験勉強が必要ありませんし、入学後に専攻を決められる北米の大学に似たシステムもあります。

また、入学後も日英両語を使った講義が行なわれる大学や英語で行なわれる講座のみを受講して卒業単位を取得できる、いわゆる英語プログラムを実施している大学もあります。これらは日本語で大学の講義を受講できるほどの日本語力はないが、日本の大学で学びたいというニーズに合っています。英語プログラムを実施しているのは、以前は、上智大学国際教養学部と早稲田大学国際教養学部くらいだったのですが、2009年から今春まで行なわれた文部科学省の国際拠点化整備事業（グローバル30）によって、留学生を積極的に受け入れるために多数の

大学が続々と実施しています。の中には、留学生ではなく日本国籍でも受け入れる大学もあり、北米の高校卒業後の進学先として注目を集めています。

このように進学先の多様化によって、若者たちが日本語力と英語力、異文化理解に磨きをかけ、グローバル化する国際社会で活躍する人材として育つことが楽しみです。



写真提供 名古屋国際中学校・高等学校